

学校力向上プラン【評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 ○積極的・主体的に学び続ける子 ○自ら学びともに考える子

令和6年度 重点目標【みながかがやく土師小 みなでつくる土師小】

①自ら課題をもち、粘り強く考え抜く子どもの育成 ②多様性を尊重する児童の育成 ③生活を振り返り基本的な生活の改善を図ることができる児童の育成 体育の授業を中心とした体力向上 安全で安心できる学校 ④規範意識を高め、良いことを行動に移せる態度や実践力を育成する の4つの柱(学力向上・人権教育・健康教育、安全教育・生徒指導)を軸に教職員が協働し安心・安全な学校になるよう、学校全体で課題解決に努め学校力を高めていく。

学びの現状・

令和5年度全国学力・学習調査では、算数科・国語科ともに全国平均をやや上回る学力をつけており、「知識・技能」はよく身につけている。一方、「思考力・判断力・表現力」については全国と同程度の教科もあり、今後の伸長が期待される。子どもが主体的に学習に向かうための指導の工夫、思考力・判断力・表現力を高める指導の充実が必要である。そのためには ICT を使う力も必要である。令和5年度の学校アンケートでは、「授業でタブレットをよく使っている」という項目が低かった。個別最適な学び・協働的な学びの一体化の充実に取り組むなかで子ども自身が学びを進め、自分自身のものにできるようになるよう取り組んでいきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

令和5年度の学校アンケートの結果から「人の気持ちがわかる人になりたい」「人の役に立つ人になりたい」の項目がかなり高い。『なりたい自分』像がしっかりもてていると思う。『なりたい自分』に近づけるように取組のねらいを明らかにして豊かな心の育成につなげていきたい。体力面では令和5年度は、リズム縄跳び・大縄跳びなどを授業や休み時間に行い、体力づくりに取り組んできた。成果があった取組なので今年度も継続します。コロナが5類に移行したことで、改めて日々の体育の授業の見直しを行い体力向上にも力をいれていきたい。

項目	中項	具体目標	評価項目 (取組、成果・状態) (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認(～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学力	主体的に学び続ける子	学力向上	【学習内容の定着】 子ども一人ひとりが学ぶ力を高め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業における個別支援などの取組を行う	「勉強のことでわからないことがあると、自分で調べたり、友だちや先生に聞いたりしている」肯定的な回答80%	実施状況	3学期	B 夏季研修で特別支援研修を実施し、個別支援や個別対応について学ぶことができた。また、校内委員会や職員打合せ等、子どもの実態について共通理解を図る場を設けた。	B	学校アンケートでは、78.8%とほぼ目標の数値と同等の結果を得られた。年間を通じて、教職員どうして共有した情報をもとに支援や対応について考え実施してきたことによる成果でもある。しかし、学級に一定数否定的な回答をした児童もあり、今後も校内で連携を深めながら、子ども一人ひとりがわかる授業をめざし、研修を進めてきたい。
			【問題解決力の育成(問題解決的な授業の推進)】 さまざまな授業で問題委解決的な学習を学校全体で推進し、子どもの問題解決力を育成する	「問題をとくときに、これまでに習ったことが使えないか考えている」「友だちの考えを聞くときは、新しい考えやよりよい考えを探しながら聞いている」とともに、肯定的な回答80%	学校アンケート	3学期	A 教育委員会指導主事先生をまじえた研究授業前の事前検討会や、事後等議会により、問題解決的な学習における指導法やめざす子どもの姿について話し合うことができた。	A	学校アンケートでは、ほぼ目標の数値と同等、特に低学年においては肯定率 85%をこえる結果を得られた。これまでに問題解決的な学習を重視して授業を展開してきた成果といえる。今後も、過去に学んだことをもとに問題解決に挑もうとする姿勢の問題解決力の育成をめざして校内研修を続けていきたい。
		個別最適な学び、協働的な学びの実現をめざした授業改善	●【一人1台 PC の活用】 さまざまな場面で児童用タブレットを使い、情報活用能力の伸長を図る	「週 3 回以上授業で「児童が」PC を活用している」80%	学校アンケート	3学期	A 研修を実施し、授業におけるタブレット活用に向けた取組を実施した。また、月に1回のタブレット持ち帰り、冬休みのドリルパークによる課題配信を実施することができた。	A	冬休み以降も、ICT を授業で活用する場面が多く見られ、教師も児童も活用することが習慣化してきている。2月に実施した学習参観においても、ICT を活用した授業や発表において活用する学年が多く、保護者の方々にも ICT 活用の可能性を感じていただく機会となった。
			【主体性の育成】 主体的に授業に参加し、学習内容を身につけていくために、子どもの問題意識を大切に授業づくりを進めていく	「社会の授業は好きですか」肯定的な回答75% 「国語の授業は好きですか」肯定的な回答75%	学校アンケート	3学期	B 研究授業やステップアップ研修において問題意識を大切に指導法について共有することができた。今後、様々な教科でのそれぞれの先生の学びを共有していく必要がある。	B	教職員間で指導法についての研修を積み重ねてきたが、学校アンケート結果の数値は、目標には達することができなかった。子ども自身が学ぶ意義を見出し、友だちと学ぶ喜びや達成感を味わうことができる授業を展開していけるよう、今後も授業改善に取り組んでいきたい。
			●【研修テーマ達成に向けた取組】 「子ども自ら課題をもち、粘り強く考え抜く子どもの育成」のため、校内研究授業を全6回(各学年1回)実施し、子ども理解や指導法について全教員で共有し改善を図る。	全学年の校内研究授業実施 研究授業の成果と課題の共有	実施状況	3学期	A 全学年の校内研究授業はすべて終了した。今年度の振り返りや成果と課題の共有は 3 学期に行う予定	A	1年生から6年生までの全学年の研究授業と討議会を実施することができた。討議会では、今年度より ICT を活用し、伝え合った意見を保存しやすい形式を取り入れた。それにより、閲覧や保存が容易になり、研究授業での学びのつながりを強く感じられた一年間であった。PDCA サイクルを意識しながら、今年度の成果や課題を次年度研修テーマの設定へとつなげていきたい。
豊かな心・健やかな体	たくましく心身ともに成長する子	体力向上	【体力づくり】休み時間でのリズム縄跳びや大縄の取組を行う(全校児童対象)	「外で体を動かすことは好きですか」肯定的な回答 90%以上	学校アンケート	3学期	A 大縄の取組は今年度は見送り。リズム縄跳びは計画通り実施した。体育の公開授業や自主研修会を行い、授業の在り方について深めることができた。	B	A 「体を動かすことが好きですか」の肯定的な回答が81.3%と目標値を下回った結果になった。次年度は今年度「体力向上」についての捉え方を職員全体で確認し、取り組んでいく。縄跳び週間などの全校の取組を継続しつつ、体育の授業での準備運動の在り方について実践を重ねていく。
			【授業づくり】体育の授業での「準部運動」について職員間で共通理解をし、体育授業の充実を図る	種目ごとに準備運動があることを共通理解し、授業実践を行う	実施状況				
		命を守る	【防災教育】 年間4回の避難訓練や総合的な学習の時間での取組で子どもの防災への意識を高める	「火事や地震があったとき・不審者が入ってきたときにどのように行動するかわかっている」肯定的な回答80%	学校アンケート	3学期	A 地震(1学期)、880万人訓練、不審者対応訓練、ミニ避難訓練など、計画通りに実施できている。	A	学校アンケートの結果、児童の肯定的な回答は 95.9%であった。また、保護者からの「緊急時の対応について、学校は tetoru や手紙などでわかりやすく伝えている」の肯定的な回答も 93.2%であった。取組も計画通りでき、安全への意識が高まっている。
	生活をよくくらし、心豊かな子	安心安全な学校・学級	【いじめ】 いじめ防止のため一人ひとりにあった「居場所と出番」がある学級集団をつくる。いじめが起こった際には、いじめ対策基本方針にのっとり適切に対処する。 ●【気になる子ども・不登校対応】 普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	いじめアンケートを1年に3回、同じ日に実施し、アンケートの内容について子どもの思いをたずね、すべての事案に対応する。100% 気になる子どもの状況を校内委員会で共有し具体的な支援や教育相談につなぐ。	実施状況 実施状況	3学期 3学期	A A 1学期・2学期に生活アンケートを実施済み。聞き取りは児童全員から行っている。 校内委員会をたちあげ、情報共有できている。	A A 毎学期に1回、土師のやさしい子週間を設定し、アンケートを実施。つらい思いをした、していないに関わらず、全ての児童から聞き取りを行った。 気になる子どもの様子を確認でき、情報共有も行えた。話し合う内容の精選、開催時期やメンバー構成などを見直し取り組む。	

			【よりよい生活】 「土師のよい子」を合言葉に、規律ある学校生活に取り組む。	「自分から進んで挨拶をする」「学校のきまりを守っている」「相手の気持ちを考えて行動している」ともに、80%	学校アンケート	3学期	A	児童会を中心に子どもたちが全校朝会で月ごとのきまりを発表している。	B	アンケートの結果は「あいさつ:78%」「きまり:76%」「相手の気持ち:84%」で3項目中2項目下回った。全校朝会で児童会から毎月の生活目標の発表は行うことができた。	いいじめがないか心配な面もある。
	自他を認め合い、協力する子	違いを認め合える仲間づくり	●【人権教育】 多様性を認め、自分とは違う考え方にふれたりする機会をもち、自分も仲間も大切にす。 様々な場面で傾聴(共感, 受け入れ, 理解)することの大切さを伝え、児童の傾聴力の育成を図る。	「普段から、ふわふわ言葉をつかっている」80%以上 「自分には、よいところがあると思いますか」70% 「友だちや周りの子の良いところを見つけることができる」70%	学校アンケート	3学期	A	土師のやさしい週間・人権週間・平和週間を実施するなど計画的にできている。ふわふわ言葉の取組は中央ホールに掲示している。	A	ふわふわ言葉については、肯定的な回答が 73.1%と目標を達しなかった。だが、さまざまな週間での取組や日常の中の多様性に配慮した指導により、「友だちや周りの人のよいところを見つけることができる」というのは87.9%と多くの肯定的な回答が得られた。	A ・友だちの良いところを見つけられる素敵な子どもが多いことに嬉しく思う。・自己を肯定できる子が他人も認められると思う。そういった子どもを育ててください。
			【特別支援教育】 ちがいを認め、他者への思いやりをもつように、互いに尊重し合うことができる子どもを育成する。	「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」80%	学校アンケート	3学期	A	各学年1回の啓発授業を計画的に実施している。	A	各学年 1 回の啓発授業は計画通り実施できた。「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」は全校で87.9%で、目標値を達成できた。	
地域	地域を愛する子	働地域・協	【学校教育の周知】 学校ホームページ、teturu・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校HPを毎日更新、各学年で1週間に1回以上更新できるように取り組んだり校報で学校の様子を伝えたりする。	実施状況	3学期	A	Teturu での情報発信は前年度より増している。HP も継続的にアップしている。	A	学校アンケートで評価項目について、88.6%の肯定率を得られた。引き続き取り組む。	A 祭りへの参加、防災における連携等、積極的に取り組んでいることは評価します。

校長より(年度末)
学校アンケートの各項目については成果もある一方で、課題も浮き彫りになりました。まずは、「学校は楽しい」という子どもを増やしていきたいと思ひます。そのためには、授業改善や土師校区独自の地域のリソースを生かした教育活動や体験活動の充実を行うことで、子ども自ら学びを進めることができるように取り組んでいきたい。多様性を認め、互いに尊重することができる児童の育成のため、人権教育にも力を入れていき、一人ひとりの子どもの成長を育む学校として、次年度は学校力を高めるよう、保護者の皆様への理解を深め、地域の方々ともしっかり連携しながら、学校運営を行っていきたくて思ひます。

学校関係者評価から(年度末)
学校教育アンケートを見ると、各項目については学校のがんばりによって概ね高い評価を得ていると思ひます。項目によっては若干、自己肯定感の低いと思われるものもありますが多様性のなかで自ら学び成長できる子どもたちを育ててください。今後も祭りや防災、土師ボランティアなど、地域とのつながりを大切にしたい。先生方の働き方改革は引き続き努力していただきたい。